

(令和4年6月3日 午前10時45分)

●議長(佐藤武雄) 会議を再開します。

通告の2、北村富貴夫議員。

- 1、観光道路等の整備
- 2、AEDの設置状況
- 3、デジタル化について
- 4、原油高騰に伴う対策は

議席番号1番、北村富貴夫議員。

◆1番(北村富貴夫) 議席番号1番、北村富貴夫です。4点の項目について質問させていただきます。質問が多くボリュームがありますので、答弁は簡潔明瞭でわかりやすくお願いいたします。質問の内容によっては順番が前後することがありますので、どうぞよろしく申し上げます。通告に沿って、野尻湖の周遊道路の整備状況等についてお伺いします。野尻湖は古くは信濃尻湖と呼ばれ、芙蓉湖とも呼ばれています。ナウマンゾウ化石が出土する湖としても知られており発掘調査も行われています。湖沼水質保全特別措置法指定湖沼です。天然湖で妙高高原、黒姫高原とともに妙高戸隠東の斑尾山と、西の黒姫山に挟まれた標高654メートルの高原に位置しています。面積は4.56平方キロメートルで、長野県の天然湖としては諏訪湖について2番目に大きく、水深は39メートル以上と書かれており、貯水量は諏訪湖を上回るとされています。湖の水は池尻川を通じて流出し、関川へ合流して日本海に注いでいます。妙高戸隠連山国立公園にも指定されています。天然湖で信濃町では重要な観光資源です。ポスターやパンフレット等いろいろなところで必ずと言っていいほど野尻湖が出てきます。野尻湖は信濃町民の誇りでもあります。一昔前の賑わいを、と思いこの観光資源をもっとアピールして観光客を誘致していくことが必要ではないかと思えます。しかしそのためには、受け入れる信濃町としても道路整備が必要かと考えています。まず町長に伺います。野尻湖という観光資源、景観等をどのように活かして考えていますか。その辺についてお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 北村富貴夫議員さんから、野尻湖周遊道路の関係のご質問に関わって、野尻湖の観光をどのように考えているかということでございます。なかなか現在難しい状況下にあるなというのは正直なところでございまして、観光そのものは、前提となるものは訪れたい皆さんのニーズがどこにあるのかというところが、非常に重要になってくるのかなと思えますし、それからスキー産業等々も含めて町内の関係においては、時代と共に若干と言いますか衰退してきている、というような状況もあります。国内状況を見ても団体旅行というのは、一昔前ほどの賑やかな団体旅行にはなっていないんじゃないかな、というのは客観的にみている訳ですが、そういうことから考えると、まさにこの時代と共に人間が求めるニーズというものもだいぶ変わってきているなど、実

感として思っております。その中で野尻湖ということをつ捉えた場合に、変わらないのはやっぱり野尻湖の自然の素晴らしさだと思っております。この自然の素晴らしさを私ども今、平成27年ですか、の3月27日にその昔の信濃高原国立公園から分離をして妙高戸隠連山国立公園として三十数番目の新たな国立公園の一角として、その野尻湖も山岳エリアからは離れますが、そういうことで国立公園の指定を受けているわけがございます。そういう面からしますと、単に信濃町の町民の財産のみならず、県民の財産でもあり、そしてまた国立公園のという観点からしましても国民的な財産でもあると思っております。そういう意味では基本的に前段に申し上げました自然というものの良さをしっかりと守りながら、訪れる皆さん方のニーズに応じていくべく整備が必要なんじゃないかと思っております。今後の中でも留意しながら、信濃町内の全体の観光というものについても行政の立場としても進めて行かなければいけないんじゃないかなと思っております。以上です。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 町長より行政の立場としても、これから時代のニーズと共にいろいろとやっていきたいという話をいただきました。その中で周遊道路ですが、先日私も通って見ましたが、なかなか整備が遅れているなというのを実感しております。そういう点では、危機管理対策でも道路整備は大変必要ではないかと思っておりますが、野尻湖菅川線この辺についても今後どのように整備していくのか、その辺についてもお伺いしたいと思います。

●議長（佐藤武雄） 海口建設水道課長。

■建設水道課長（海口泰幸） はい、北村議員からのご質問の関係ですが、野尻菅川線ですが、こちらについては、代行工事が県の方で現在入っている状況でございます。こちらについては、古海の毛見入口から野尻方面にかけて約1.2キロの区間で県代行事業が入っておりまして、こちらの拡幅工事を進める状況でございます。こちらの内容につきましても、県に確認したところ現在ボーリング調査と法面方向の設計を実施しているということで、来年以降に用地買収それから工事が実施されるというような状況を確認を得ております。その他の部分につきましても、また県にいろいろとお願いするところもあるんですけども、ただ今野尻菅川線という形の中で北村議員からご質問がありましたので、この件について回答させていただきました。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 野尻菅川線については今のような状況で県代行だというようなお話がありました。これも来年度以降もどんどん進めていただきたいところですが、妙高高原飯山線そちらの方もあると思うんですが、そちらの方はどうなっているんでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 海口建設水道課長。

■建設水道課長(海口泰幸) 妙高高原線の関係でございますけれども、こちらにつきましては昨年につきましても建設事務所長はじめ以下課長等で現地を立ち会っていただく中で、現地確認をしていたわけでございますけれども、妙高高原線につきましては熊坂から古海の区間でございますが、一般的に新道坂なんて呼ばれている部分があるんですが、そちらの方の急勾配の解消ということの中で、スノーシェッドというものを設置する方向で今県の方は進めております。設計業務が実施されておまして、こちらの方ができてくれば、去年も、大変急で雪も多かったという中で、交通でスリップ等が発生しておりまして、これが実際に施工されて実施されればそういったスリップ等の部分についても解消されて、先ほど観光の話も北村議員もされておりましたけれども、観光へのアクセス等々も行われて1つの問題解決になるのではと理解しています。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 妙高高原飯山線ですが、そちらの方も拡幅ということも必要ではないかと思っていますので、ぜひ前向きに検討していただきたい。そして実際に観光客が来れば、野尻湖から黒姫高原、斑尾高原、そして戸隠方面に、車でくればドライブを楽しむというようなこともあります。実際にこういう所の危機的管理上の案内板とか、そういうもののしっかりとした設置は、危機管理でいざとなった時にどこへ逃げて行くのか、そういうことも必要でないかと思いますが、その辺についてはどう考えておられますか。

●議長(佐藤武雄) 海口建設水道課長。

■建設水道課長(海口泰幸) ただ今の件ですが、普段からこちらの方では注意を払っておりますが、万が一災害等々が起きた場合につきましては、通行止め等々の表示を早急に掲示する。またそれに関連しまして、う回路の方の誘導看板を設置していくよう対処し心掛けて準備するようしております。また危険箇所等につきましても、普段のパトロールを行う中で注意喚起を図る意味で、そういう看板等も設置していくように心掛けておりますので、よろしくお願いたします。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 危機管理というのが、今大変騒がしいほどいろいろなところで出てきておりますので、道路が崩れたとかそういう時にもぜひ必要ではないかと思っております。特に野尻湖の周遊道路は危険箇所がいくつもあるのではないかなと思っています。まだガードレールがないところもありますし、そういうところもしっかり考えて対応していただければと思います。それから今県代行で工事をしているようではございますけれども、これもしっかり対応していただければと思いますのでよろしくお願いたします。続いての質問に入ります。AEDの設置状況です。AEDは自動体外式除細動器といいます。小型の器械で体

外に貼った電極のついたパッドから自動的に心臓の状態を判断します。もし心室細動という不整脈を起こしていれば、強い電流を一瞬流して心臓にショックを与えることで心臓の状態を正常に戻す機能を持っています。器械の電源を入れれば音声を使い方を順に示してくれるので、誰でもこの器械を使って救命活動をすることができます、というようなことが説明書等に記載されています。もしもの時に誰でも使用できるようにすることが大変重要ではないかと思っています。まず、信濃町での設置状況、それから防災拠点、こういうところにもっと設置をしたらどうかと思うんですが、その辺についてお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) はい、それでは数字的なことですので私の方でお話をさせていただきます。現在町の公共施設でAEDを設置している箇所は23施設に24台設置してございます。施設に対して1台多いという形なんです。信濃小中学校につきましては2台設置しているというところがございます。また、避難所の話が出ましたが、指定避難所につきましては17施設に16台設置しているというところがございます。以上です。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 23か所に24台、それから17施設に16台というようにお話をいただきました。防災拠点、実際には各公民館とかもあると思いますが、そういうところについてはどうなんでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) ほとんどが、公民館等は指定避難所になっております。防災として付けているということではなくて、その各施設ごとに必要ということで、施設管理者の方で設置をされていると、公民館についても設置はされているという理解でよろしいかと思います。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 公民館等には設置されていると。地区の公会堂等についてはまだ入っていないということよろしいですか。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) はい。地区の公会堂等については地区の方で管理されておりますので、うちの方でそこまで全部を調べているわけではないですが、設置されているという話は聞いていません。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 今後、公会堂等そういうところでAEDが必要だということであれば、ぜひ設置について前向きに検討していただきたい。そしてネットに全国のAEDマップがありました。こういうものを町のホームページにも掲載したらと思いますけれども、その辺についてはどうでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） AEDの設置場所は町のホームページの中にも掲載してございます。防災関連施設の中にAEDの設置箇所を載せておまして施設名が載っております。その施設名をクリックしていただくと、その施設のどこに置いてあるのかということまで書いてあるようになっております。また今お話のあった全国のAEDマップ、それが一般財団法人の日本緊急医療財団というところで管理されておりますが、一部ではございますが載っています。他にも長野市消防局でも、信濃町の状況についても掲載されておりますので参考にいただければ、町のホームページにも載っておりますのでよろしくどうぞ。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） 一般の方がすぐにAEDが必要な時に分かるようにしておくことが必要ではないかと思っています。そこでまずAEDの点検状況、点検については電池もそうですけれども、いざという時に使用できなければ意味がありません。この点検状況についてどのようになっているのでしょうか。

●議長（佐藤武雄） 松木総務課長。

■総務課長（松木和幸） AEDの導入の方法というのがいろいろあります。購入する場合、リースの場合、レンタルの場合というような形になっております。その状況によりまして、またその入っている機種によっても若干異なっております。電波でその状況をお知らせするものもございます。異常が発生すると分かるのでそれで交換をしたり、電池寿命は2年とか決まっておりますので、その都度交換をさせていただいております。そういう時に点検なども行っておりますので、いずれも使用が出来ないことがないように注意をしてやっているという状況でございます。

●議長（佐藤武雄） 北村議員。

◆1番（北村富貴夫） では点検は毎日のようにやっているということでもありますので、しかしこの使用方法が分からなければ宝の持ち腐れとなりますので、講習会の開催状況についてお伺いしたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) 先ほどもお話したとおり、導入するのが各施設ごとで行っておりますので、施設ごとで講習も行っております。実際に講習を行う際は消防署等をお願いをしているわけですが、施設ごと違いますが学校や保育園、これにつきましては毎年行っているところでございます。他の施設につきましても行ってはいるんですが、機器の更新等に合わせて行っているという状況でございますので、今後は頻度を増やして開催できればと考えているところでございます。以上です。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 一般の企業等、新人研修などもっと誰でも使えるような講習会というのは必要だと思っています。いざという時に使えなければ本当に意味がありません。ボランティアの方でそういうことを教えてくださる方もいらっしゃると思いますので、今まではコロナ禍ということもあり、なかなかできなかったかもしれませんが、ぜひ実施に向けて今後進めていただきたいと思います。次の質問をさせていただきます。デジタル化についてです。3月の一般質問で、行政改革の中でペーパーレスのことについて質問させていただきました。総務課長の答弁では、議会の条例等がタブレットで簡単に検索できるというようなことで、我々もだいぶ楽になりました。これを更に推進すべきと思います。それから議会のペーパーレス等も必要になってくるんじゃないかなと思いますけれども、その関連で質問します。「誰一人取り残されない、人に優しいデジタル化を。」というミッションでデジタル庁が昨年設置されました。信濃町ではこの推進をどのように考えているか、また推進方法についても伺いたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) 現在町では、地方創生推進交付金を活用しました、信濃町DXイノベーション推進事業、これを令和4年度の今年度から令和6年度の3年間にかけて行う予定で今進めているところでございます。事業推進にあたりましては、その専門的な知識や技術を有するため、公募型のプロポーザル方式による受託者の募集をかけました。そうしたら2社応募がございまして、5月27日に選考委員会を開きまして業者を選定しまして6月1日付で契約を行ったところでございます。今年度は事業者向けのデジタル通信の活用セミナーの開催、また町民の皆様向けにワークショップを開催しながらデジタルの活用に関する現状や課題等ニーズの把握を予定しているところでございます。またマイナンバーカードの普及がこのDXを推進する上で、特に必要となりますので、デジタル活用の啓発イベントとマイナンバーカードの普及に向けた取り組みを行う予定であります。具体的に言いますと、オンラインによるマイナンバーカードの申請や、マイナポイントの活用の方法等、またセミナー等を通して進められればと考えているところでございます。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 今年から3年間の間にいろいろとやっていただけるということなんですが、一般の方にワークショップを行うということですが、実際にこういうことについての目標というのは何かお持ちでしょうか。一般の方がなかなか公民館等に足を運ぶ、または役場に足を運ぶということになった時に、いざとなった時になかなか来ないのではないかなということも考えられるんですけども、そういう時のことについても伺います。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) 今のところは今お話のあったワークショップですので、会場は公民館等を使う中で募集をかけてきていただく方法を、検討しているところでございます。できるだけ来ていただいて、それを覚えていただければ今度はオンライン等で進められますので、まず実際に手に触れることもありますので、そういう形で進めて行きたいと考えております。以上です。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 今後3年間の間にどのくらいのワークショップをやるのかもちょっと分かりませんが、この辺についてはどう考えておられますか。例えば、月1回ずつ進めて行くのだとか、半年に1回だとかいろいろな方法があるかと思いますが、その辺について伺います。

●議長(佐藤武雄) 松木総務課長。

■総務課長(松木和幸) まず今年については課題の抽出が主になりますので、ワークショップ等も何回かは開催しますが、それ以降は皆さんのニーズを把握してから進めたいと思っておりますので、それに応じて何が必要なのか、それを把握してから進めて行きたいと思っておりますので、今ここで何回というような形ではなかなか難しい部分もあります。よろしく申し上げます。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) このデジタル化というのは、高齢者にとってはなかなか難しいものもありますし、私自身もすべてができるということではありません。こういうものについてしっかり課題を抽出するというお話ですので、これをしっかりやっていただきたい。これが机上の空論にならないように、これが一番だと思っています。デジタル化はなかなか難しい、もう触るのも嫌だという人もいくらでもいらっしゃいますので、前向きに進めていただければと思います。続けて次の質問です。納税のことについて伺います。納税方法はいろいろあると思いますが、ペイジーという方法があると思うのです。インターネットで手軽に支払える決済サービスです。今までは金融機関の窓口やコンビニでしか支払うことのできなかつた支払いを、自宅にいながらパソコンや携帯電話、

金融機関のATMなどから簡単に支払うことができます。平成12年に設立されたサービスです。多くの金融機関が対応しておりまして、インターネットやATMでも使用できるようになっています。利用するには事前申し込みや登録といった作業は一切不要となっています。コロナ関連予算を利用して、コンビニ等での納税ができるようになりました。納税をしっかりとしてもらうためには、インターネットなどにより納税者に便利な方法で納税等に利用を検討すべきじゃないかと思いますが、そこについてお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 高橋税務会計課長。

■税務会計課長(高橋 徹) 来年度からにはなりますが、地方税に関しましては納付書の統一によりましてQRコードを付けることとなっております。このQRコードを付けることによりまして、スマートフォンからの納税ということができるようになります。モバイル納税ということになりますが、これに合わせましてバーコードを付けることによって今まで信濃町ではコンビニでの納付というのができなかったんですが、これが可能となってきます。ただ今議員がおっしゃられましたページに関しましてのインターネットからの納入というのは今のところ実施の予定というのはありませんが、来年度以降につきましては納付手段も拡大しますので、そういう意味からも納税者の利便性というものは高まるかと思っております。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 来年度からQRコード、モバイル納税ですね。そういうものができるということですので、少しでも納税者が便利な方向になっていくんじゃないかなと思います。しかし、最近山口県阿武町でおきた誤送金事件は、ヒューマンエラーを生み出す要因の1つにフロッピーディスクを使用していたことが時代遅れというようなことがありました。私もかつてやっていたんですが、25年ぐらい前ですかね、このフロッピーディスクでやっていたことがあります。こういうものも、もう時代遅れでございます。しっかりと投資すべきところは投資していかねばと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。そして先ほど総務課長の方から、マイナンバーカードの普及という話がありました。今現在のマイナンバーカードの普及率はどうなんでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 柄澤住民福祉課長。

■住民福祉課長(柄澤 豊) それでは私の方からお答えをさせていただきます。全自治体での統一条件での普及率の調査が随時ございまして、当町の場合ですが令和3年1月1日の人口8100人に対しまして、令和4年5月1日現在の交付枚数3187人で、交付枚数率が39.3パーセントとなっております。長野県の交付枚数率が38.0パーセント、県下で一番高い自治体は51.2パーセント、一番低いところが24.9パーセントとなっております。当町は長野県の平均よりも少し高い状況ということでございます。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 先ほどの総務課長の答弁にもありました、マイナンバーカードも更に普及していかないとデジタル化というのもやはり進んでいかないと。当町では39.3パーセント、長野県が38パーセントで少しは長野県に貢献しているのかどうか、更に進めて行くべきだと思います。運転免許証、健康保険証こういうものの統合が検討されています。一番は、私は個人情報漏れるのではと懸念しています。そういうものを払拭しながら普及率を上げていただければと思います。町の対応として信越病院はマイナンバーカードで保険証の扱いは可能となっているのでしょうか。

●議長(佐藤武雄) 丸山病院事務長。

■病院事務長(丸山茂幸) 令和3年度から利用可能となっております。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 現時点で、マイナンバーカードで保険証、どのくらいの患者さんが使用しているのでしょうか。その辺は把握されていますか。

●議長(佐藤武雄) 丸山病院事務長。

■病院事務長(丸山茂幸) 当院を利用されている患者様の層からいいまして、なかなかご利用いただけていないというような状況でございます。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) すいません、ゼロということですか。

●議長(佐藤武雄) 丸山病院事務長。

■病院事務長(丸山茂幸) 確かな数字は掴んでいないんですが、ゼロではないということでお答え申し上げます。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) それでは数名の方がされているということですかね。1桁ぐらいかなというふうに感じました。やはりそういうものも全体の中で推進をしていくということであれば、町独自ではなくいろいろなところもあるんですけれども、町としてもしっかりとこの推進をしていくべきだと思います。一番は私が先ほど申し上げましたが、個人情報の漏れに懸念があります。そういうものを払拭していただきたいと思いますので、今後も進めていただければと思います。続いての質問です。4番目の質問ですが、

これはいろいろなところで言われていることなので、町長の6月議会の冒頭あいさつにもございました。世界的に石油の在庫が少ない。コロナ禍以降原油の減産が続き、またウクライナ情勢で供給が不足してきていると言われていいます。コロナ禍によって人々の移動が抑制され、原油の需要が縮小することが予想されましたがしかし、今後は需要拡大、原油の価格高騰、物価の高騰が予想されています。4月の全国消費者物価数は前年同月より2.1パーセント伸びたということで、新型コロナウイルス禍で疲弊する困窮家庭に、エネルギーや食料品といった物価の高騰が今追い打ちをかけています。6月の町長の冒頭あいさつで、緊急支援対策ということでいろいろと出ていました。新型コロナ地方創生臨時交付金を活用した原油価格物価高騰対応分として、低所得の高齢者世帯等に対する物価高騰生活支援で1067万1000円、子育て世帯生活支援で2040万9000円を独自にということで、町独自に追加支援するという事です。政府でも緊急支援対策を講じています。それから水田活用の直接支払い交付金、いわゆる転作田への助成金事業では、5年間水を張らなければ助成金を支給しないことを決定しています。家計を直撃する原油価格の高騰は、大変厳しく家計に響くものです。生活をするために農家への支援等も検討すべきかと思えますけれどもその辺についてお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 今北村議員からの原油高騰に対する対応ということでございます。お話がございましたように、いわゆる生活困難者、また子育て世帯等々の皆さんについては、初日の補正予算等々で対応させていただいているところでございます。今この産業分野をどのように見るかというのが非常に難しいんですね。例えば農業の場合には、主にトラクターなどの燃料は軽油だと思うんですが、この軽油取引税といいますが、その辺の申請をすれば軽減措置があるというのは、これは私もよく知らなかったんですが前々からそういう制度があるんですってね。ですから、町とすればそのことを改めて、町内では十数件でしょうか、そういう制度を利用されているということでございます。特に大規模でやっていらっしゃる皆さん方は、それだけの影響があるということでございますので、そういう制度をまたしっかりと周知させていただく必要があるかなと思っています。今、原油高騰と物価高という問題については前段お話ししましたように、特に困りのそういう皆さん方については手立てを補正予算でさせていただいている、その後といいますか、少なくとも分け隔てなく町民の皆様方が生活上、この間の新聞を見ますと約1万点以上物価が上がっているという話も記事になっていました。それから、自動車の燃料についてもそれぞれ大変な思いをしているということでございますので、それらを踏まえて最終日にまた補正予算として対応させていただければなと思っております。今思うのは一世帯といいますが、ということを対象にしながら、世帯に対して物価高・原油高の対応としての町内で消費していただく、そんな方策を講ずるということが、今予定として考えているということでございます。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) まず軽油のことについては、ぜひ制度を更に浸透させていただけれ

ばと思います。そしてお子さんがいる世帯、低所得者世帯等いろいろあるんですけども、今回6月議会冒頭で町長からお話されまして、補正予算が可決されました。また最終日にも出るというお話ですが、やはり以前にもやった地域振興券というようなことは考えているのかどうかだけお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 地域振興券風で対応させていただきたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 地域振興券風でというお話がございました。その関係で、子どもがいる家庭、学校関係で給食費を無償にするという考えがあるのかどうかだけお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 佐藤教育長。

■教育長(佐藤尚登) 信濃町の学校では児童生徒の家庭から給食費といえますか、食材費として、学年によって若干金額が違いますけれども頂戴していますが、現時点でそれを一切無償化するという事は考えておりません。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) もうご存じかと思うんですけども、全国の1740の自治体における2017年度の調査した情報では、小中学校の給食費の無償化は76自治体ということで、全体に占める割合は4.4パーセントです。特にそのうちの人口3万人未満の町村で71自治体、人口1万人未満は56自治体が無償化されているケースが多いと言われています。そういう中で今後給食費の無償化というのは、ぜひ検討していくべきではないかなと。お子さん連れの移住される皆さんはこういうものも検討材料に考えていらっしゃるのではないかなと思います。町の移住対策もいろいろとあるんですけども、こういうものもしっかりと支援して前向きに検討をお願いしたいと思います。そこでこの物価高の中で、信越病院の建設費用にも相当影響があるのではないかなと思います。基本構想時点では約28億円の建設費用でしたけれども、基本設計時点では約29億6000万円となり、比較ではもう1億6000万円が増加しています。町の負担額も基本構想時点で約14億円でしたが基本設計時点ではもう16億円と2億円が増えています。今後さらに増えるのではないかなと思いますけれども、この辺についてはどのように考えてらっしゃるのかお伺いします。

●議長(佐藤武雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 基本的なことですので私の方から答弁させていただきたいと思います。

おっしゃる通り、今ナマモノとしての経済情勢が、世界経済がそういう状況になっているということはしっかりと受け止めなければいけないと思うんです。現実私どもが今進めている諸事業についてどういうふうになるのか、これはこの先の経済見通しもどうなっていくかというのも、言葉は悪いですがさきほどのナマモノの経済なものですから、少なくとも安くはならないだろうと思っています。そんな意味では例えば今具体的な大きな課題としての信越病院を建築しようと、こういう計画で今進めさせていただいているんですが、そんなことも含めてさっきの予算の中でも基金として6億数千万円の現在高に対して約1億円積み増しをさせていただいたというようなことでございます。本当に私も正直なところ、一番心配をしているところであります。過度な状況が出ればしっかりとその後の財政シミュレーションも踏まえて対応していかなければいけないんじゃないかなと思います。今の段階では病院の場合には実施設計ということになってきますので、その設計を見てそして、設計は現在示されている設計単価で積み上げになるんだろうと思うんです。その先の実際に入札になった時に、そのことが機能するのかどうかということも、ひとつの大きな懸念材料にもなるわけであります。そういうことも含めて総合的にまた判断をしていかなければいけないんじゃないかなと思っています。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) 町民の立場で見たときに、やはりこれは大きな懸念材料だと思っています。実際にどんどん物価が上がってくると資材の調達、それから建設資材等そういうものがどんどん上がってきます。この中でどのようにやっていけばいいんだろうと思うと、やはり早め早めの対応が必要なんだろうと思います。この間設計の住民説明会が終わったところですけれども、早く入札に回っていただいて進めるべきだろうと思います。次の世代に、町の借金もなるべく少なくするということは大事なことはないかなと思いますので、その辺をしっかりと対応していただければと思います。最後に町長にもう一度伺いするんですけれども、やはりこの入札から今後の信越病院の状況についてちょっと伺いしたいと思います。

●議長(佐藤武雄) 横川町長。

■町長(横川正知) 基本的には信越病院の関係につきましては、予定通りに進めたいというのは今の思いでございます。しかし今言いましたようにそれぞれ世界情勢、国内情勢の経済の状況が刻々と変化しているということもありますので、北村議員さんがおっしゃられましたように、早くやれと言ってもそれぞれの計画に基づく話でありますから、なかなか明日すぐに変更できますというわけにも正直なところ行かないわけです。従いまして状況を踏まえながらしっかりと、最終的に利益に繋がるような決断をしていきたいと思っています。

●議長(佐藤武雄) 北村議員。

◆1番(北村富貴夫) しっかりと、町民への負担がないような方法が一番いいんです

令和 4 年 第 420 回信濃町議会定例会 6 月会議 会議録（2 日目）

けれども、段々にこの物価高がどういうふうのなっていくのか分かりません。その中で町長の決断というのはここで大きなものになってくると思いますので、しっかりとやっていただければと思います。以上で私からの質問を終わらせていただきます。

- 議長（佐藤武雄） 以上で、北村富貴夫議員の一般質問を終わります。この際申し上げます。昼食のため午後 1 時まで休憩といたします。

（終了 午前 11 時 30 分）